

ほんがいっぱい



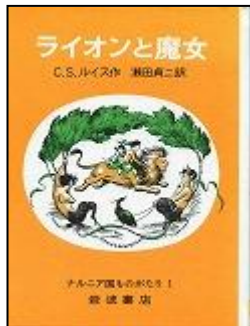
よんでみよう!

5・6年生のための本

① 『ライオンと魔女』

C.S.ルイス／作 瀬田貞二／訳 ポーリン・ベインズ／絵 岩波書店《Fル》

いなかの古い屋敷にやってきた4人兄弟は、さっそく屋敷の中の探検を始めた。衣装ダンスの中に入ったルーシーが、洋服をおしのけ踏み込んでいくと、そこは一面の雪景色…ナルニアの国だった。“ナルニア国ものがたり”シリーズ全7巻の1巻目。



② 『夏休みの秘密の友だち』

富安陽子／著 大庭賢哉／絵 偕成社《Fト》

ユイとタクミはキツネ一族のママを持つ姉弟。夏休みに訪れたパパの故郷で、山で開かれる不思議な祭りの話を耳にする。どうやら普通のお祭りではないらしい。町で出会ったキツネの兄弟と一緒にお祭りに参加しようとする…。二人のふしぎな夏休みが始まる。



③ 『コービーの海』

ベン・マイケルセン／作 代田亜香子／訳 鈴木出版《Fマ》

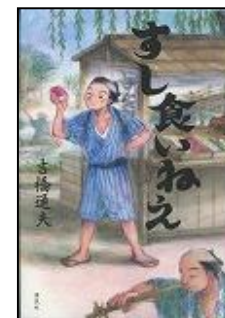
8歳の時、事故で右足を失った少女コービーは、ボートで海に出かけた日、クジラの出産に立ち会った。母クジラはけがをしていて、生まれた赤ちゃんも危険な状態。「なんとか、助けたい!」コービーは、夜の海へと飛び込んだ。



④ 『すし食いねえ』

吉橋通夫／著 講談社《Fヨ》

「さあ、食いねえ、食いねえ、すし食いねえ。」威勢のいいかけ声をはるのは、与兵衛ずしの一人息子の豆吉だ。豆吉は、ひよんなことから若侍の文四郎と短棒使いのおきょうと知り合い、江戸で一番うまいすしを決める御前試合に出ることになったが…。



⑤ 『お静かに、父が昼寝しております』

母袋夏生／編訳 岩波書店《M》

ダマは、高価な宝石を持っていた。ある日、エルサレムの大祭司の使者が宝石を売ってほしいとやってきた。高いねだんで買うといっても、ダマは売れないという。理由は父親が昼寝をしているからだというのが…。

⑥ 『だれも知らない小さな国』

佐藤さとる／作 村上勉／絵 講談社《Fサ》

小学3年生の時、ぼくは山で、小指ほどしかない小さな人を見かけた。小川に流されていく赤いくつの上で、かわいい手をふっていたんだ。あれが、昔からこの小山に住んでいるという、一寸法師のこぼしさまにちがいない!

⑦『ゴリラが胸をたたくわけ』

やまぎわじゆいち ぶん あべちさと え
山極寿一／文 阿部知暁／絵
ふくいんかんしょてん
福音館書店《48》

アフリカの森の奥深く、太鼓の
ような音がする。これはゴリラが
胸をたたく音。戦いの宣言だろ
うか？でも、ゴリラはおそって
こなかった。そのわけは…。

⑧『希望のダンス』

しげやあつし しゃしん ぶん
渋谷敦志／写真・文
がっけんきょういくしゅつぱん
学研教育出版《36》

ウガンダに、エイズで親をなくし
た子どもたちのための「寺子屋」が
できた。支援をうけて勉強がで
きるようになった子は、感謝の気持
ちを伝えるためダンスを始めること
にした。

⑨『大きなたまご』

オリバー・バターワース／作 松岡享子／訳
いわなみしよてん
岩波書店《Fバ》

「ひゃー、おどろいた！」。ある朝、ネイトが家で
飼っているめんどりの巣をのぞくと、見たことのない
大きなたまごがあった。一体何のたまごなんだろう？
根気よく世話をし続けたある日、誰もが想像で
きなかった生物がたまごからかえった！



⑩『グッドジョブガールズ』

くまのたき ちよ
草野たき／著 ポプラ社《Fク》

あかり、由香、桃子はお互いを「悪友」と呼び合っ
ている。本音や秘密は言わない、べたべたしない気楽
な関係だ。そんな3人が、小学校最後の思い出づく
りに選んだのは「チアダンス」だった。目指すは全国
大会優勝！ところが…。



⑪『ペンダーウィックの四姉妹 夏の魔法』

ジーン・バーズオール／作 代田亜香子／訳 小峰書店《Fバ》
まいとし なつやす か ベっそう う だ
毎年、夏休みに借りていた別荘が売りに出され、
ペンダーウィック家の四姉妹はアランデル邸のコー
テージへやってきた。持ち主のミセス・ティフトンは
お高くとまったいやな人。けれど四人を迎えてくれた
のは、とろけそうなバター色のコーテージと美しい庭、
そして宝箱のようなお屋敷の屋根裏部屋だった。



⑫『コロッケ先生の情熱！
古紙リサイクル授業』

なかむらもと ぶん こうせいしゅつぱんしゃ
中村文人／文 佼成出版社《91.4》

コロッケ先生は、紙を再生する
会社の社長さん。紙はすててしま
えばゴミだけど、リサイクルすれ
ばゴミじゃない！楽しい授業の
はじまりです。

⑬『かき氷』

ほそじままさよ しゃしん ぶん
細島雅代／写真 伊地知英信／文
いわさきしよてん
岩崎書店《58》

キンツと冷たくて、おいしいか
き氷。なかでも天然氷を使った
かき氷はぜっぴん！てまひまか
けて水の味をぎゅっつつめこんで
いるからなんだって。

⑭『庭をつくろう！』

ゲルダ・ミュラー／作 ふしみみさを／訳
あすなる書房《Eミ》

ひっこしてきた家には大きな庭
があるけれど、草がぼうぼう。す
てきな庭にするために、ぼくと
妹は、花や野菜の種をまくこと
にした。でも、どうやってまいた
らいいんだろう？

⑮『みみずのたいそう』

かんざわとし ちよ いちかわのりこ へん
神沢利子ほか／著 市河紀子／編
にしまさかや こ が しょうてん
西巻茅子／画 のら書店《91.1》

「つちのなかから とびだして
みみずのたいそう ぴんぴこぴん
……」（「みみずのたいそう」）
ほかにも、楽しい詩・ゆかいな詩が
たくさんあるよ。